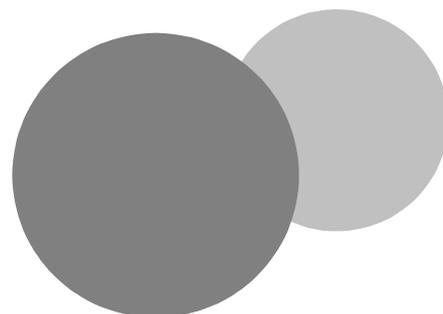


## 第2章 一宮市の状況

---





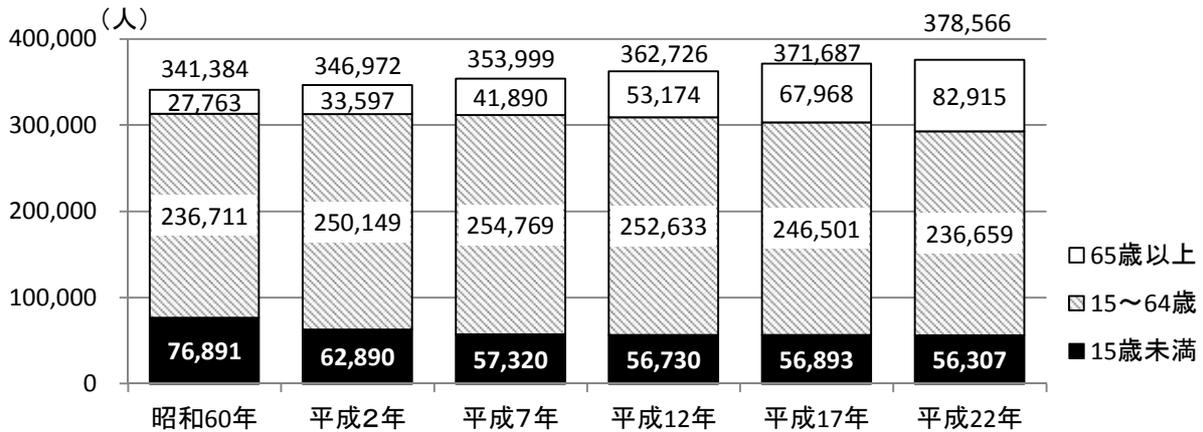
# 1 一宮市の人口・世帯・出生等の状況

## 1-1 一宮市の人口の状況

### (1) 人口の推移

- 一宮市の人口は、これまで一貫して増加しており、昭和60年の34.1万人が平成22年には37.9万人となり、25年間で約3.7万人増加しています。
- 15歳未満の人口（比率）は、昭和60年の7.7万人（22.5%）から平成22年5.6万人（15.0%）と、25年間で約2.1万人（7.5ポイント）減少しています。

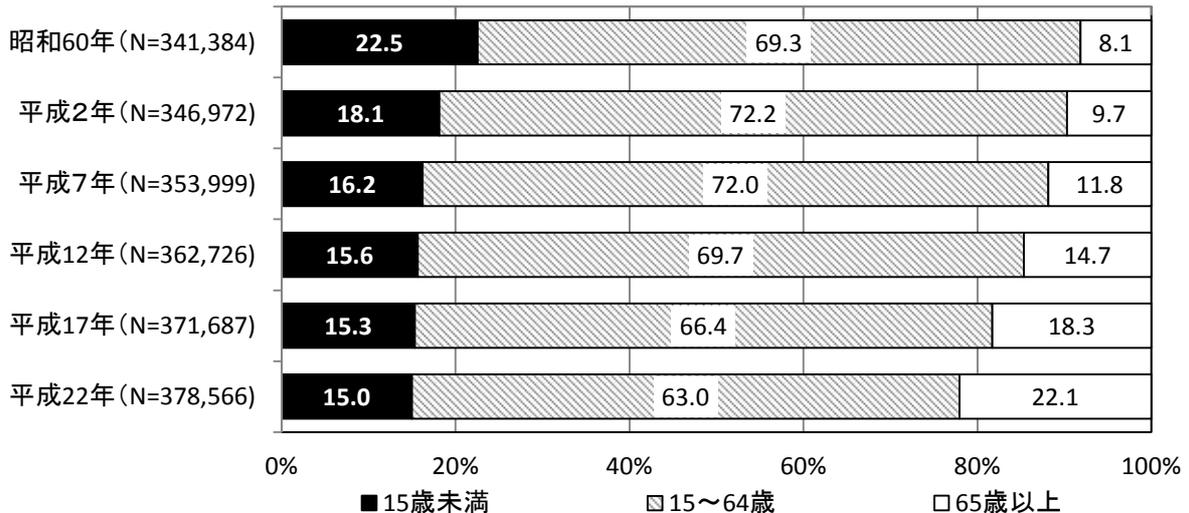
#### ■年齢3区分別の人口の推移



※昭和60年～平成12年は、一宮市、尾西市、木曾川町の合計より算出。以下同様。  
 ※人口総数は年齢不詳を含む。

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

#### ■年齢3区分別人口比率の推移



※人口比率は年齢不詳を除く合計数に対する構成比。

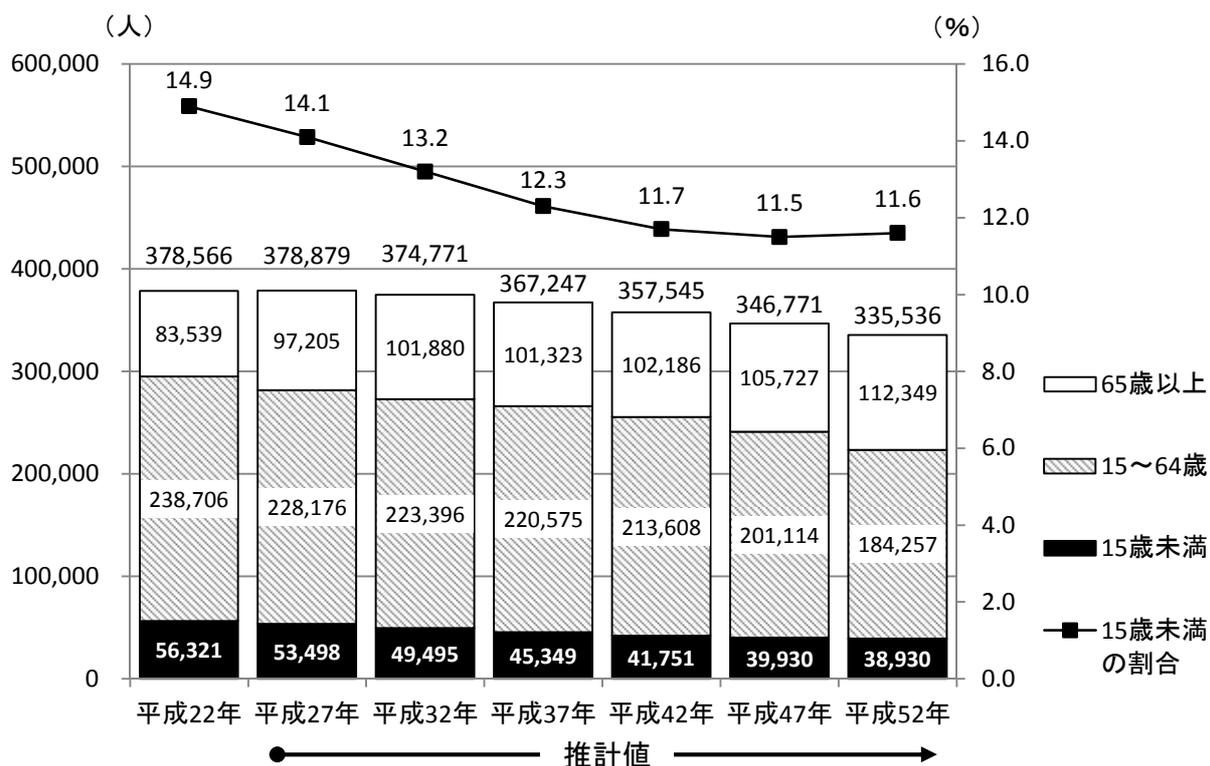
小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%とならないことがある。

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

## (2) 将来の人口推計

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、一宮市の人口は平成27年をピークに減少に転じ、平成37年には、総人口が約36.7万人となると推計され、平成22年と比べて約1.1万人（約3%）減少すると推計されています。
- 15歳未満の人口（比率）は、減少傾向が続き、平成22年の5.6万人（14.9%）から平成37年には4.5万人（12.3%）と、15年間で約1.1万人（2.6ポイント）減少すると見込まれます。

### ■ 年齢3区分別人口推計



※平成22年の年齢区分別人口は国勢調査結果の年齢不詳を補正した人口。

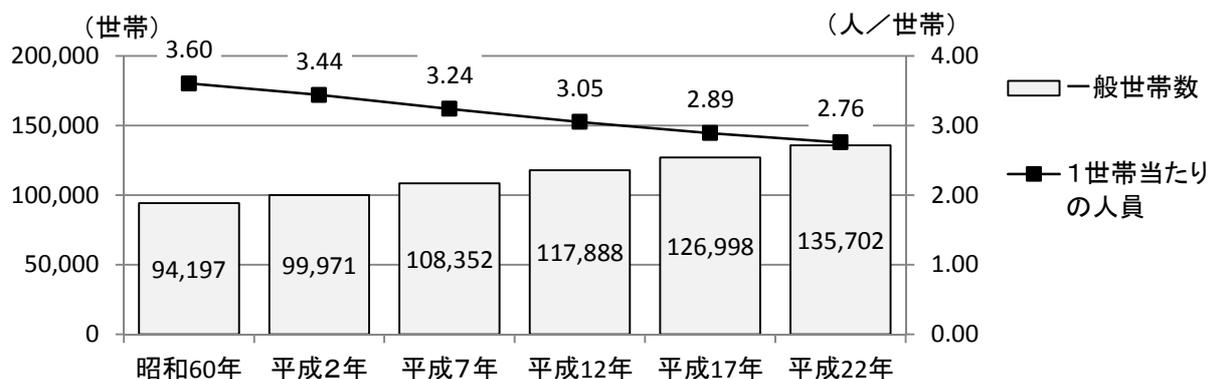
資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

## 1-2 一宮市の世帯の状況

### (1) 世帯数の推移

- 一般世帯総数は増加し続けており、昭和60年から平成22年までの25年間で約4.2万世帯増加しています。
- 「1世帯当たりの人員」は減少を続けており、昭和60年には3.60人でしたが、平成17年に3人を下回り、平成22年には2.76人となっています。

#### ■一般世帯数と平均世帯人員の推移



※一般世帯：一戸を構えて住んでいる世帯。独身寮・間借り等の単身者、施設等の世帯は含まない。

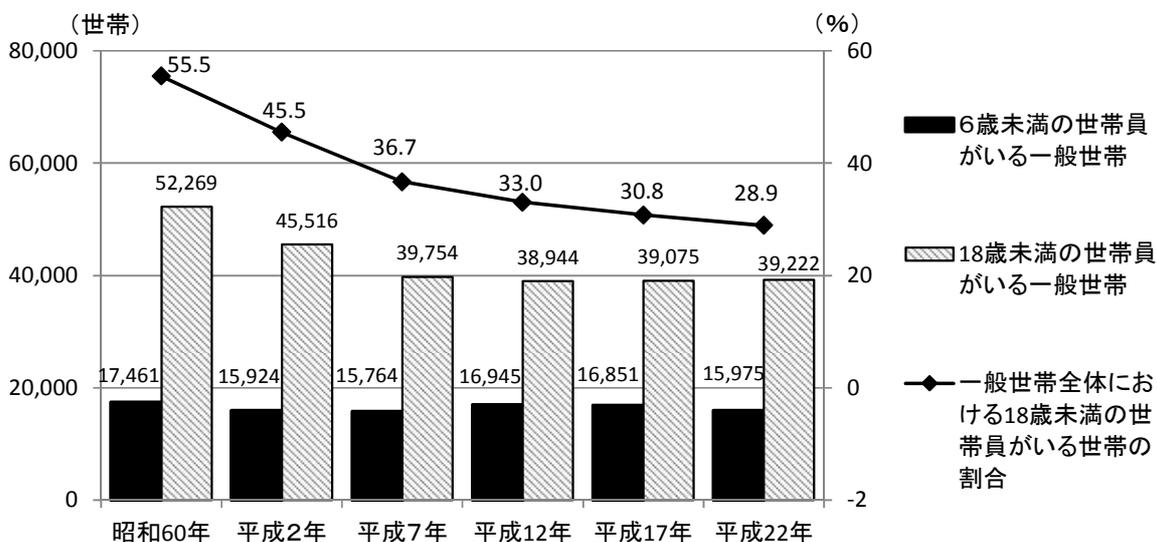
資料：国勢調査（各年10月1日現在）

### (2) 18歳未満の世帯員がいる世帯の状況

#### ① 世帯数の推移

- 18歳未満の世帯員がいる一般世帯についてみると、平成22年現在、「6歳未満の世帯員がいる一般世帯」は約1.6万世帯、「18歳未満の世帯員がいる一般世帯」は約3.9万世帯で、平成7年以降、ほぼ横ばいとなっています。
- 一般世帯全体における「18歳未満の世帯員がいる一般世帯」の割合は、昭和60年は55.5%でしたが、平成22年は28.9%と、低下しています。

#### ■18歳未満の世帯員がいる一般世帯数（割合）の推移

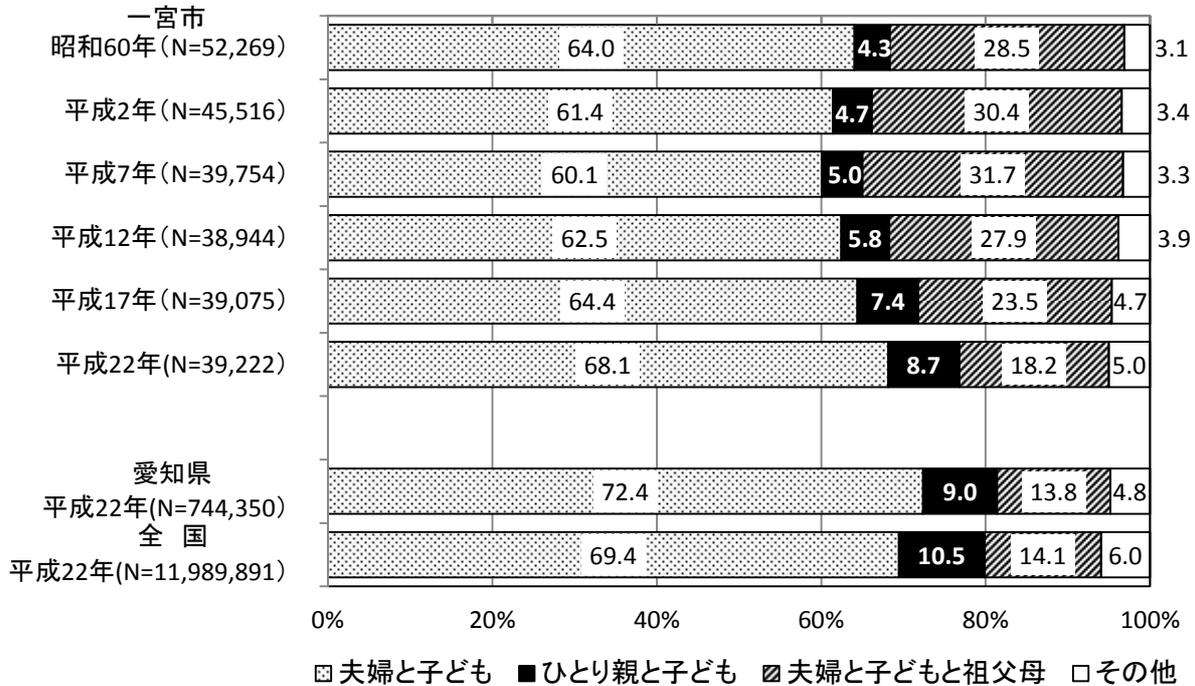


資料：国勢調査（各年10月1日現在）

## ② 世帯の家族類型別比率の推移

- ・18歳未満の世帯員がいる一般世帯の世帯類型をみると、平成7年以降は、「夫婦と子どもと祖父母」の割合が低下し、「夫婦と子ども」の割合が上昇しています。
- ・「ひとり親と子ども」の割合は上昇しています。平成22年は8.7%で、愛知県平均及び全国平均よりも低い割合となっています。

■世帯類型（18歳未満の世帯員がいる一般世帯）

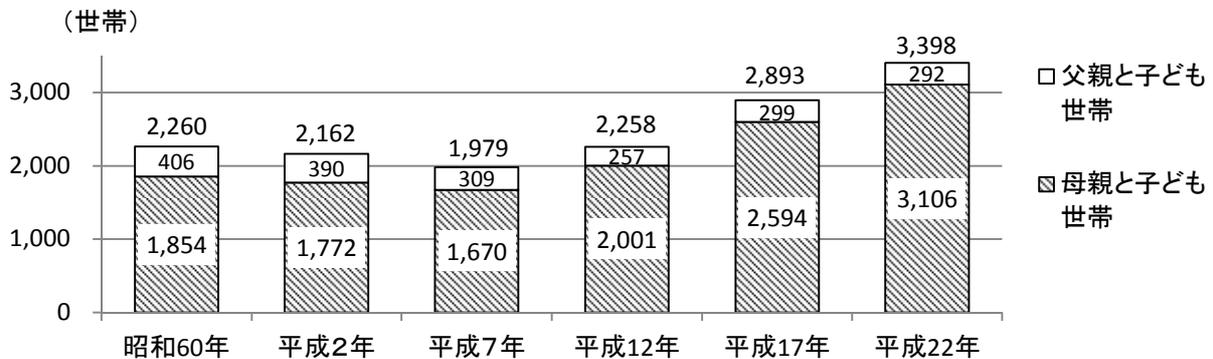


※「ひとり親と子ども」世帯：「父親と子どもから成る世帯」と「母親と子どもから成る世帯」の合計  
資料：国勢調査（各年10月1日現在）

## (3) ひとり親家庭の状況

- ・ひとり親と子ども世帯（18歳未満の世帯員がいる一般世帯）の世帯数は、平成7年以降増加傾向にあり、平成22年は「父親と子ども世帯」が292世帯、「母親と子ども世帯」が3,106世帯となっています。

■ひとり親と子ども世帯（18歳未満の世帯員がいる一般世帯）の推移



※18歳以上の兄弟姉妹が同居している世帯も含む。

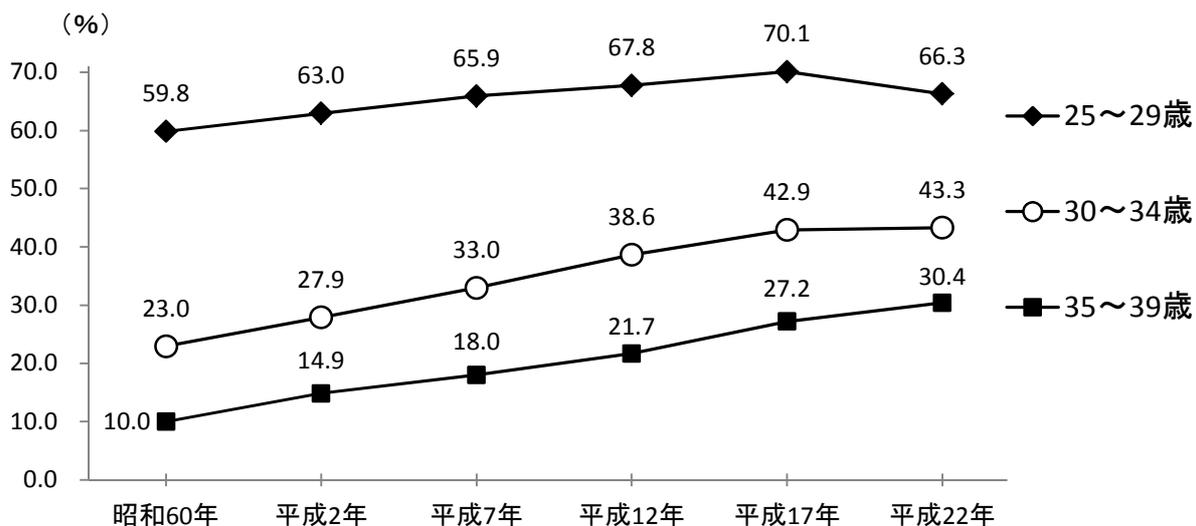
資料：国勢調査（各年10月1日現在）

## 1-3 一宮市における結婚・出生の状況

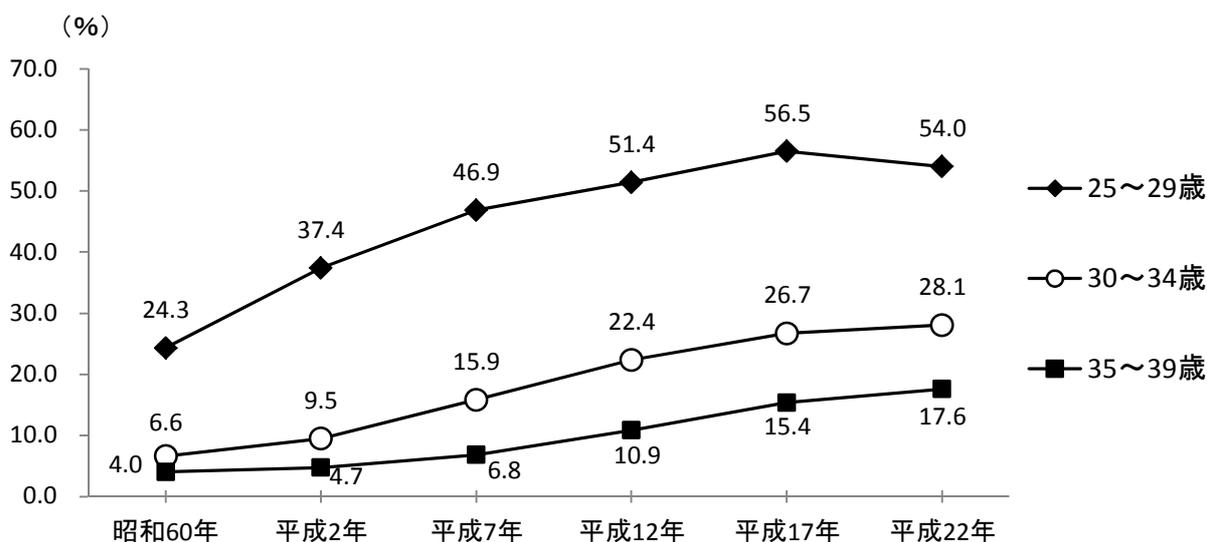
### (1) 未婚の状況

・少子化をもたらす背景の一つに未婚化・非婚化や晩婚化・晩産化があげられますが、35～39歳の未婚率（まだ結婚をしたことがない人の割合）を男女別みると、昭和60年では男性が10.0%、女性が4.0%でしたが、平成22年には男性が30.4%、女性が17.6%となっています。

■未婚率の推移 男性（25～39歳）



■未婚率の推移 女性（25～39歳）

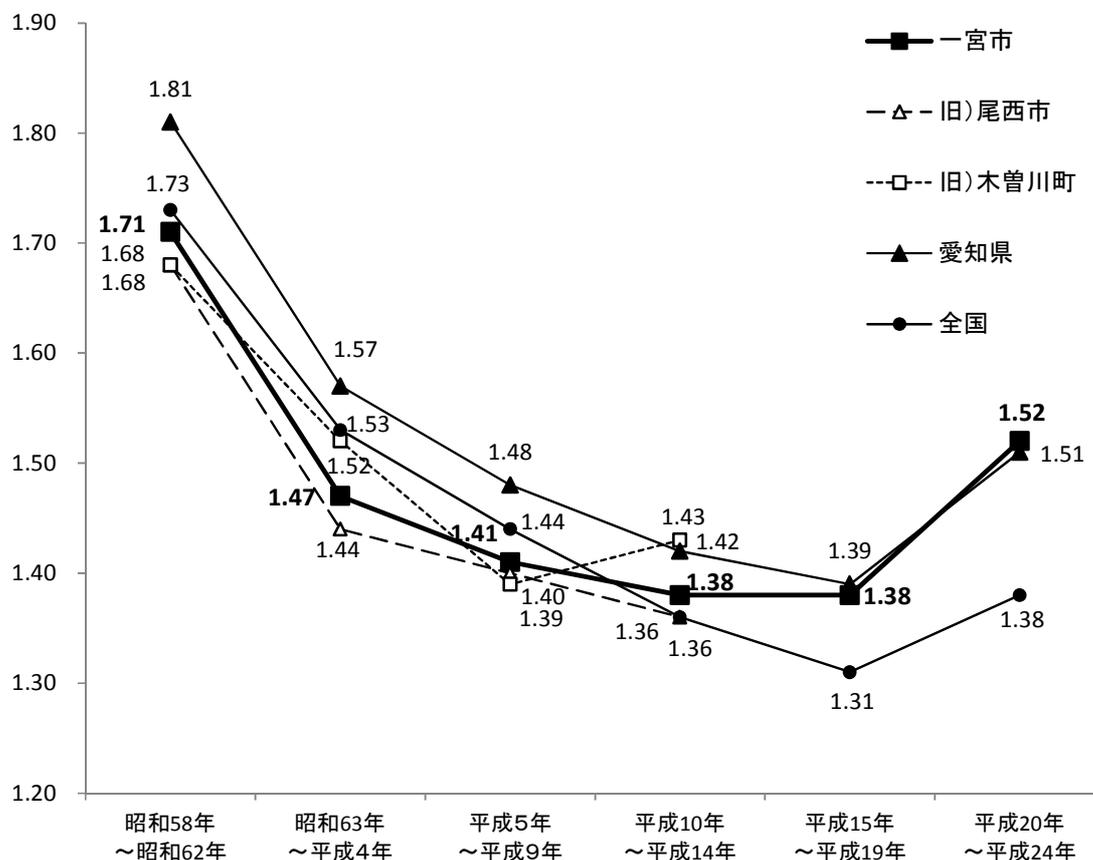


資料：国勢調査（各年10月1日現在）

## (2) 出生等の状況

- ・合計特殊出生率の推移をみると、「平成20年～平成24年」にはやや上昇し1.52となったものの、人口を維持するのに必要な水準（2.07）を大きく下回っています。

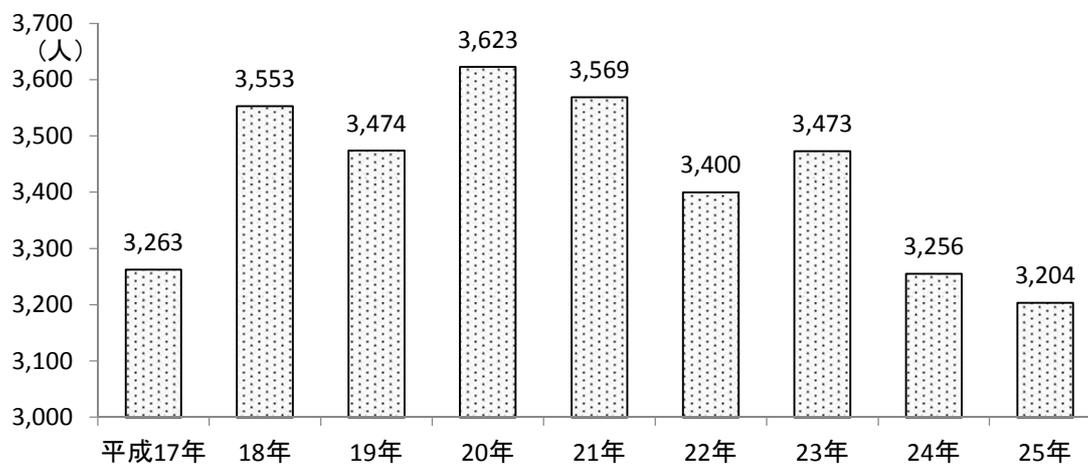
### ■合計特殊出生率の推移



※「平成10年～平成14年」以前の一宮市の値は旧一宮市の率。

資料：人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

### ■近年の出生数の推移

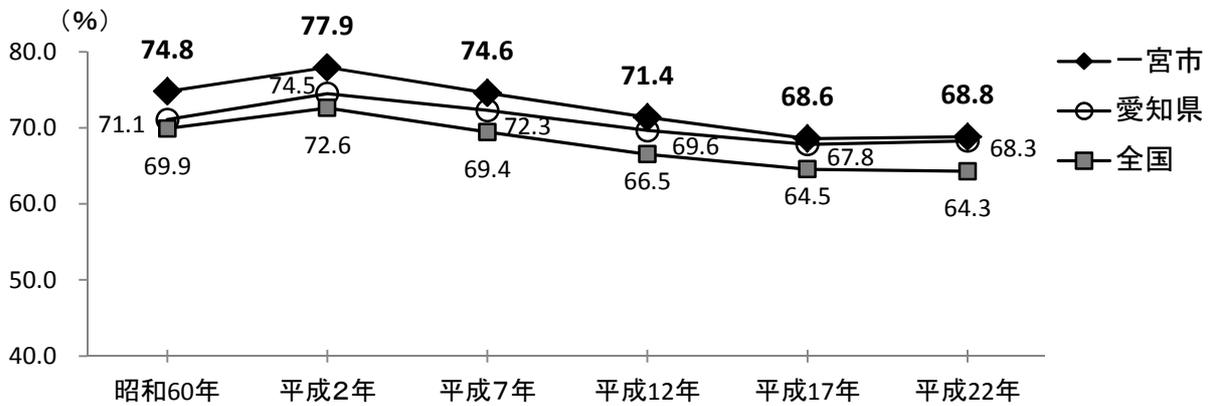


資料：一宮市の人口動態

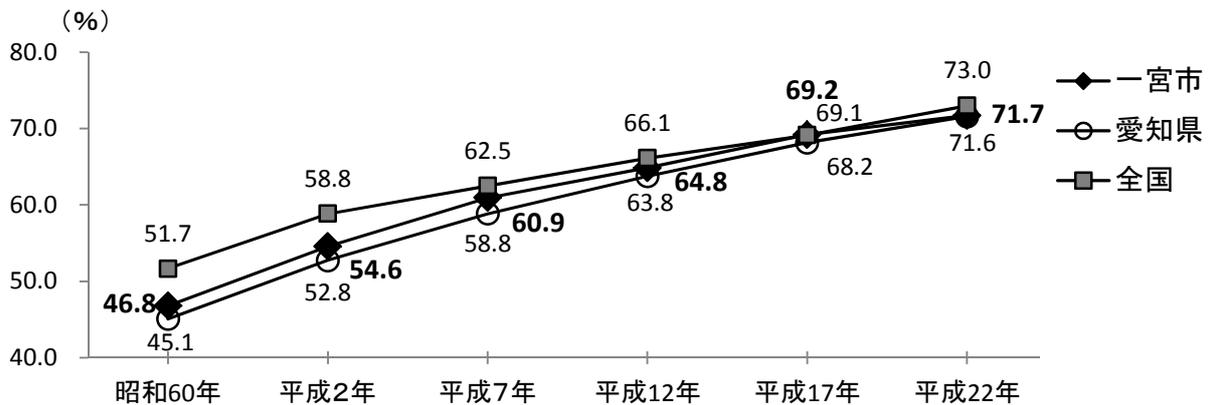
## 1-4 一宮市における女性の就業の状況

- ・女性の就業率の推移をみると、25～29歳、30～34歳は上昇傾向にある一方で、20～24歳は減少傾向にあります。
- ・全国平均と比較すると、20～24歳は一宮市の方がやや高く、25～29歳は同程度、30～34歳はやや低い割合となっています。

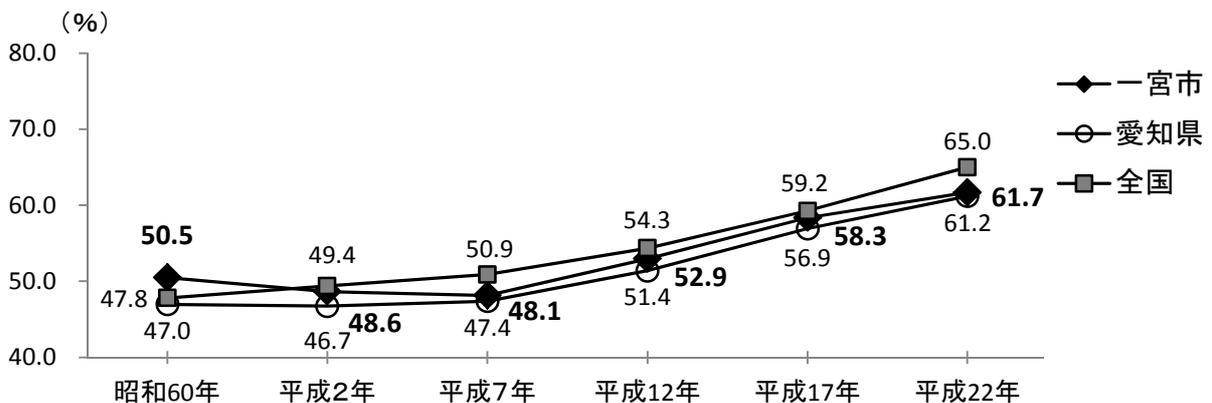
■女性就業率（20～24歳）



■女性就業率（25～29歳）



■女性就業率（30～34歳）



資料：国勢調査（各年10月1日現在）

## 2 一宮市の子育て家庭の状況

平成 25 年 11 月に実施した、「一宮市子ども・子育て支援に関するアンケート調査」（以下「アンケート調査」といいます。）の結果に基づき、子育て家庭の状況について記載しました。  
 なお、記載において「就学前」とは、小学校就学前の子どもの保護者の調査結果を、「小学生」とは、小学生の保護者の調査結果を表しています。

### （1）子育て家庭の基本的状況

#### ① 家庭類型別比率

アンケート調査に回答をした子育て家庭を「ひとり親家庭」と「両親の家庭」に区分し、さらに両親の働き方の組合せで類型化すると、その比率は次のようになります。

単位：%

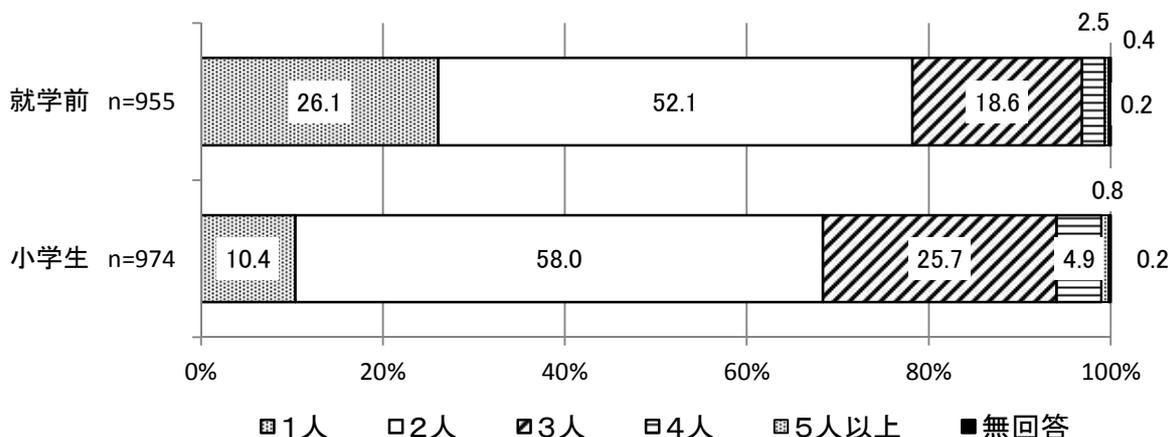
類 型	就学前				小学生			
	計	0歳	1・2歳	3歳以上	計	低学年	高学年	
ひとり親	4.9	4.8	3.0	6.1	8.9	8.5	9.3	
両親	フルタイム×フルタイム	22.5	26.7	23.7	20.7	15.4	15.0	15.6
	フルタイム×パートタイム	28.8	10.5	21.2	37.5	48.5	45.4	51.3
	専業主婦(夫)	43.1	57.1	51.7	35.0	26.9	30.6	23.6
	パートタイム×パートタイム	0.1	0.0	0.0	0.2	0.2	0.5	0.0
	無職×無職	0.5	1.0	0.4	0.5	0.1	0.0	0.2

※パートタイム：アルバイト等を含め、フルタイム以外の働き方を示しています。

小数点以下第 2 位を四捨五入し小数点第 1 位までを表記しているため、合計（縦）が 100.0%とならない場合があります。

#### ② 育てている子どもの人数

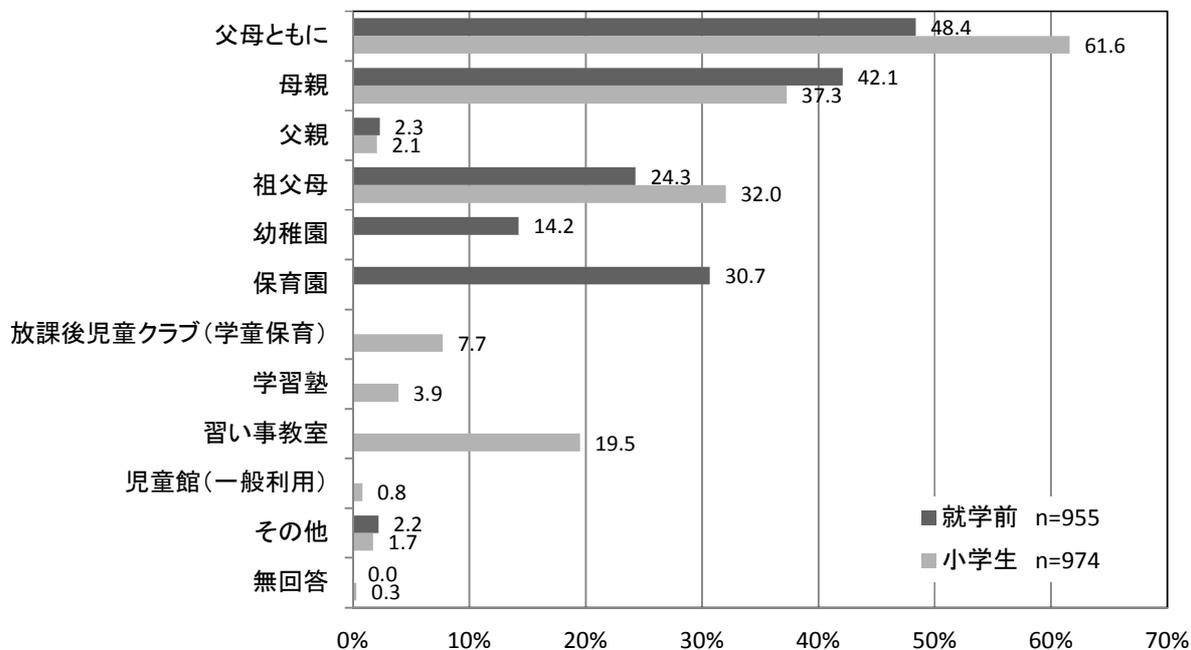
子どもの人数は、就学前、小学生ともに「2人」が最も多く、就学前が 52.1%、小学生が 58.0%と、それぞれ半数強を占めています。次いで、就学前は、「1人」が 26.1%、「3人」が 18.6%と続いています。小学生は、「3人」が 25.7%、「1人」が 10.4%と続いています。



## (2) 子どもの育ちをめぐる環境

### ① 子どもと日常的に係わっている人など

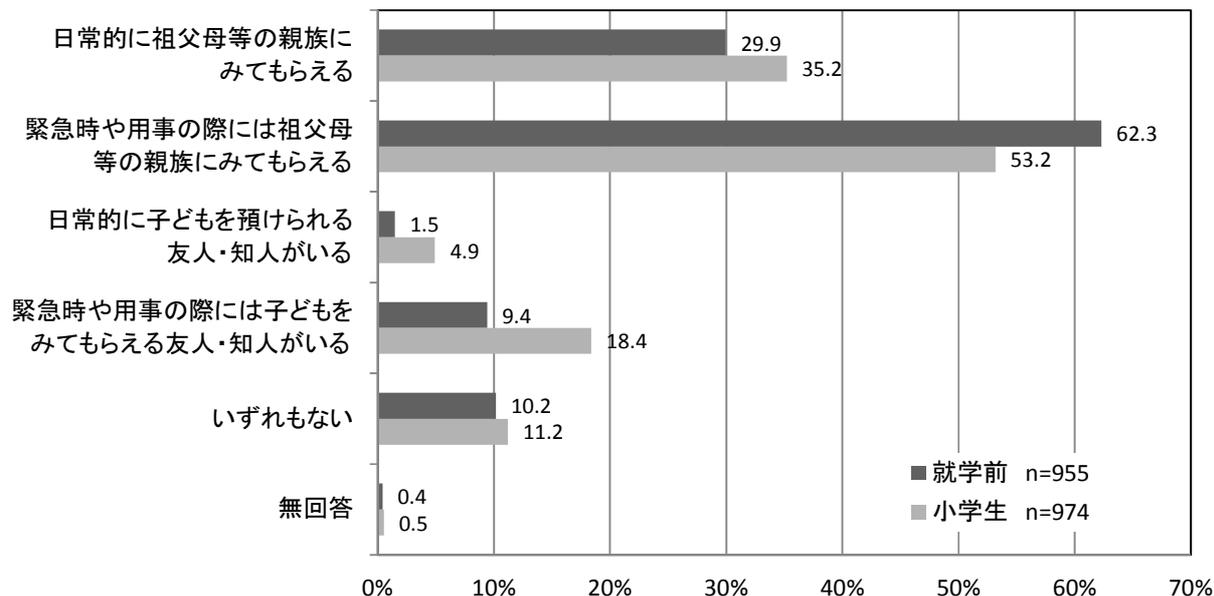
子育てに日常的に関わっている方は、「父母ともに」が最も多く、就学前で48.4%、小学生で61.6%となっています。次いで、「母親」が高く、就学前で42.1%、小学生で37.3%となっています。



### ② 日ごろ子どもをみてもらえる人

お子さんをみてもらえる人をみると、「緊急時や用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く、就学前が62.3%、小学生が53.2%となっています。

次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が多く、就学前が29.9%、小学生が35.2%となっています。

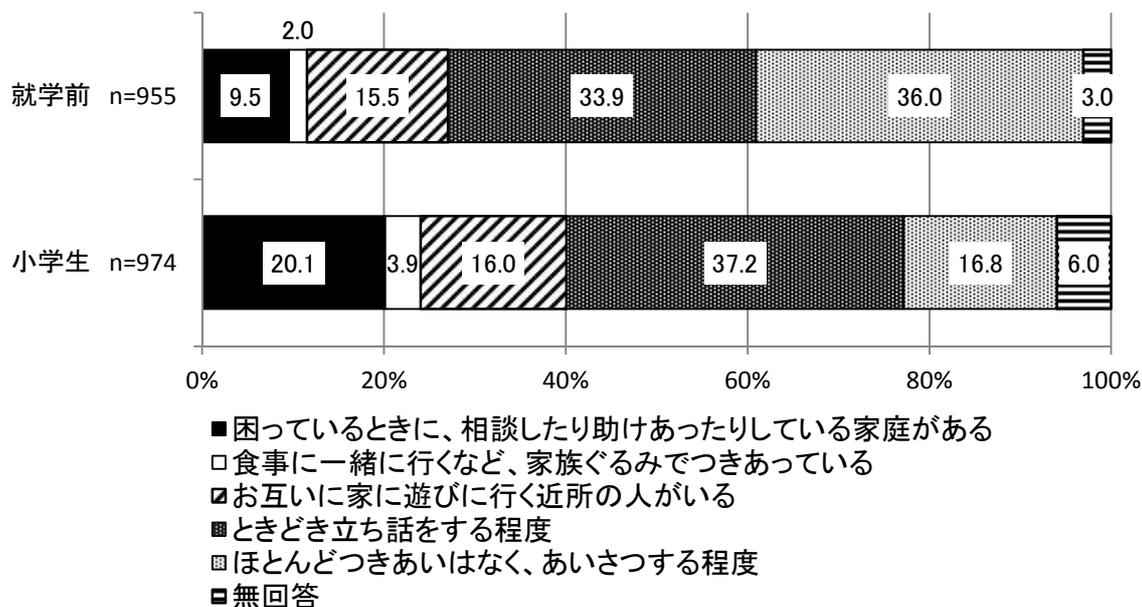


### (3) 子育て家庭と地域との関係

#### ○となり近所とのつきあいの状況

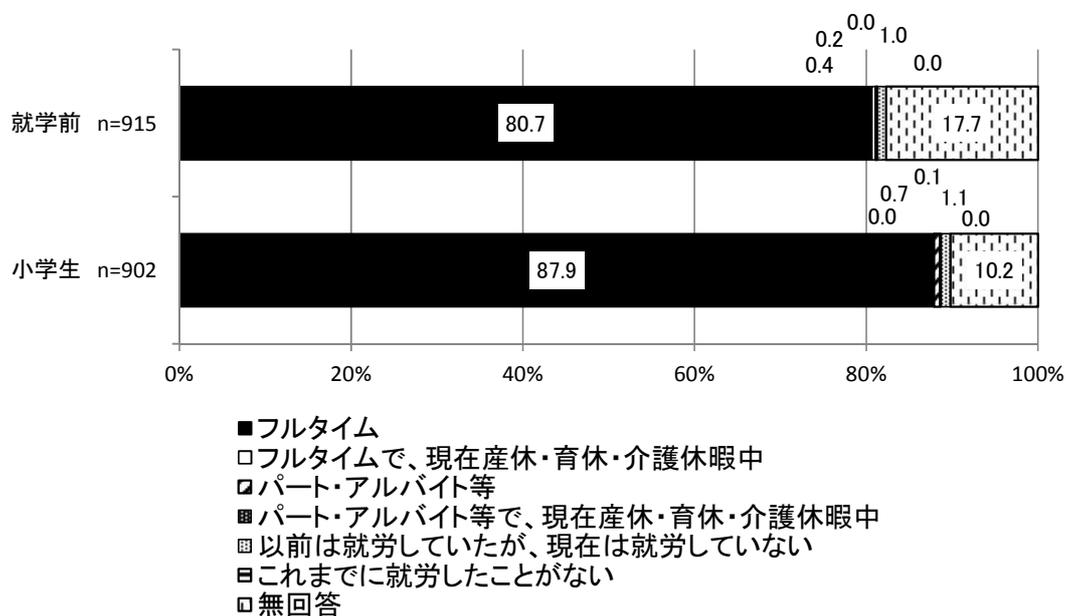
となり近所とのつきあいの状況をみると、就学前では、「ほとんどつきあいはなく、あいさつする程度」が36.0%と最も多く、次いで「ときどき立ち話をする程度」が33.9%、「お互いに家に遊びに行く近所の人がいる」が15.5%と続いています。

小学生では、「ときどき立ち話をする程度」が37.2%と最も多く、次いで「困っているときに、相談したり助けあったりしている家庭がある」が20.1%、「ほとんどつきあいはなく、あいさつする程度」が16.8%と続いています。



#### (4) 父親の就労状況

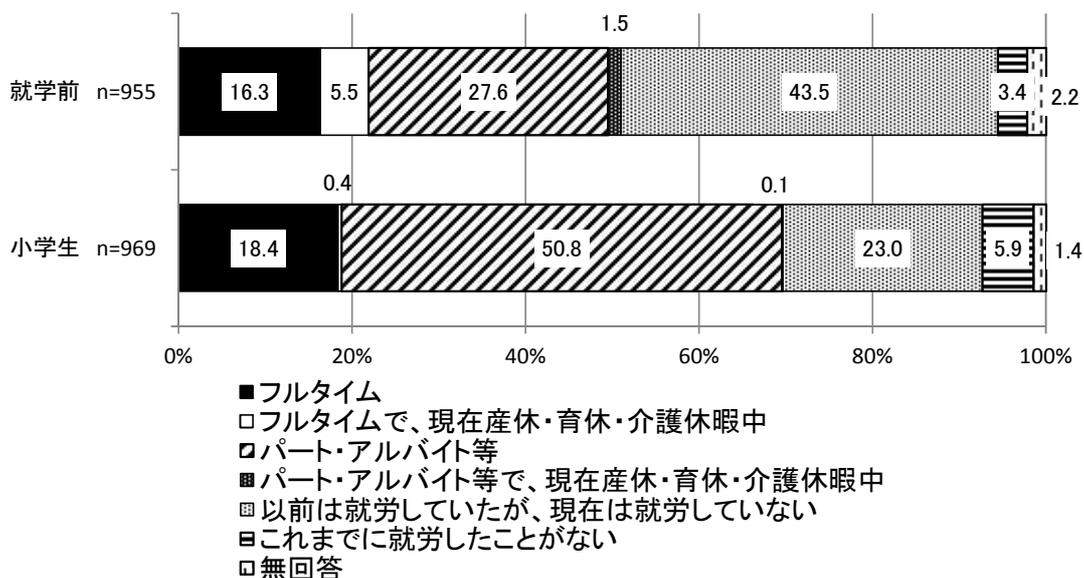
父親の就労状況を見ると、「フルタイム」が就学前では80.7%、小学生87.9%となっています。なお、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は、就学前では1.0%、小学生では1.1%となっています。



#### (5) 母親の就労状況等

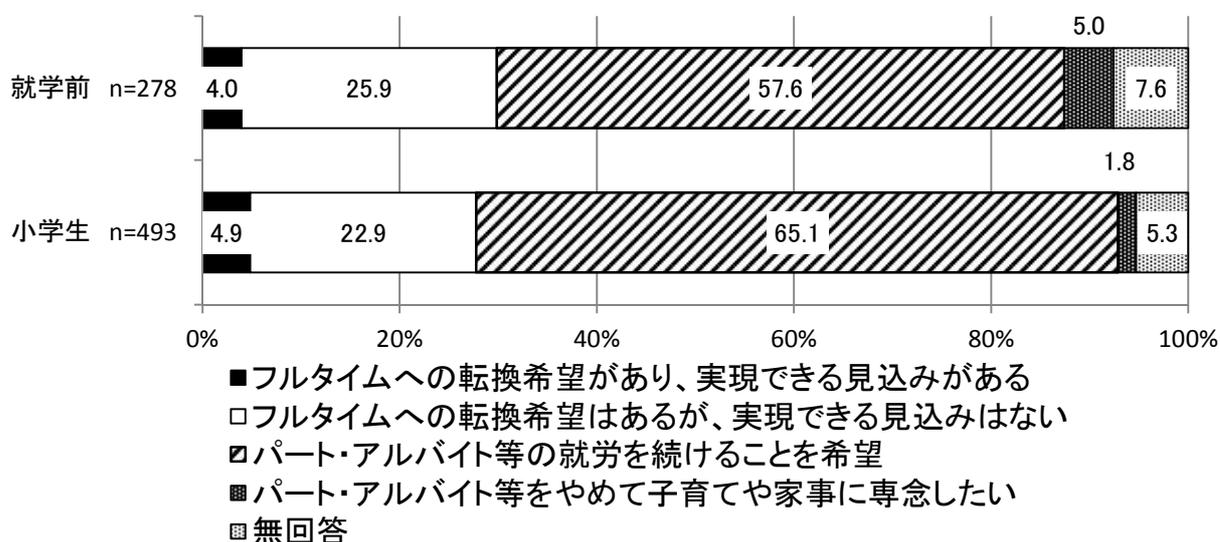
##### ① 現在の就労状況

母親の就労状況を見ると、就学前では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が43.5%と最も多く、次いで「パート・アルバイト等」が27.6%、「フルタイム」が16.3%と続いています。小学生では、「パート・アルバイト等」が50.8%と最も多く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が23.0%、「フルタイム」が18.4%と続いています。



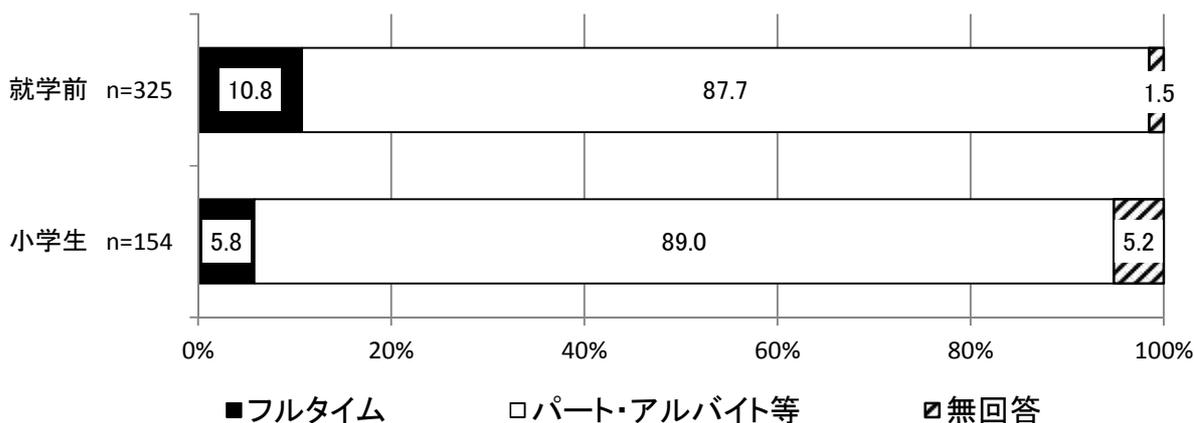
## ② パートタイム・アルバイト等からフルタイムへの転換希望

現在、パート・アルバイトで就労している人のうち、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が最も多く、就学前では57.6%、小学生では65.1%と最も多くなっています。次いで、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が多く、就学前では25.9%、小学生では22.9%となっています。



## ③ 未就労の母親が希望する就労形態

現在就労していない母親で、「一番下の子どもが一定年齢になった頃に就労したい」または「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が希望する就労形態をみると、「パートタイム・アルバイト等」が最も多く、就学前が87.7%、小学生が89.0%となっています。



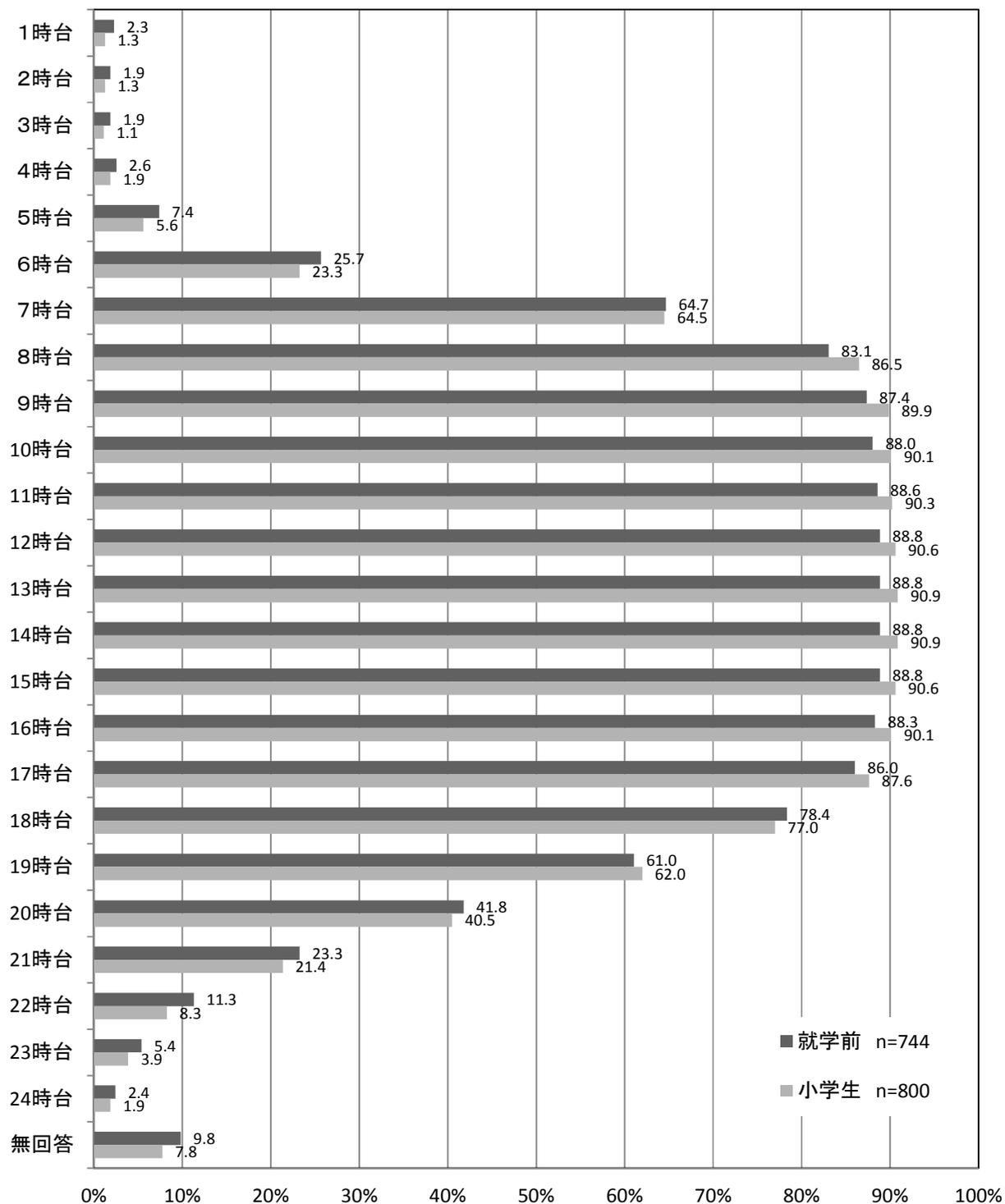
## (6) 就労している父母の出勤から帰宅までの時間帯

### ① 父親の出勤から帰宅までの時間帯

就労している父親が、家を出る時間から帰宅までの不在にする時間帯は、下図のとおりです。グラフの数値は、その時間帯に家庭にいない父親の割合を示しています。

※例：調査票記入内容 家を出る時間：〔9〕時 帰宅時間：〔16〕時

⇒集計：9、10、11、12、13、14、15時台

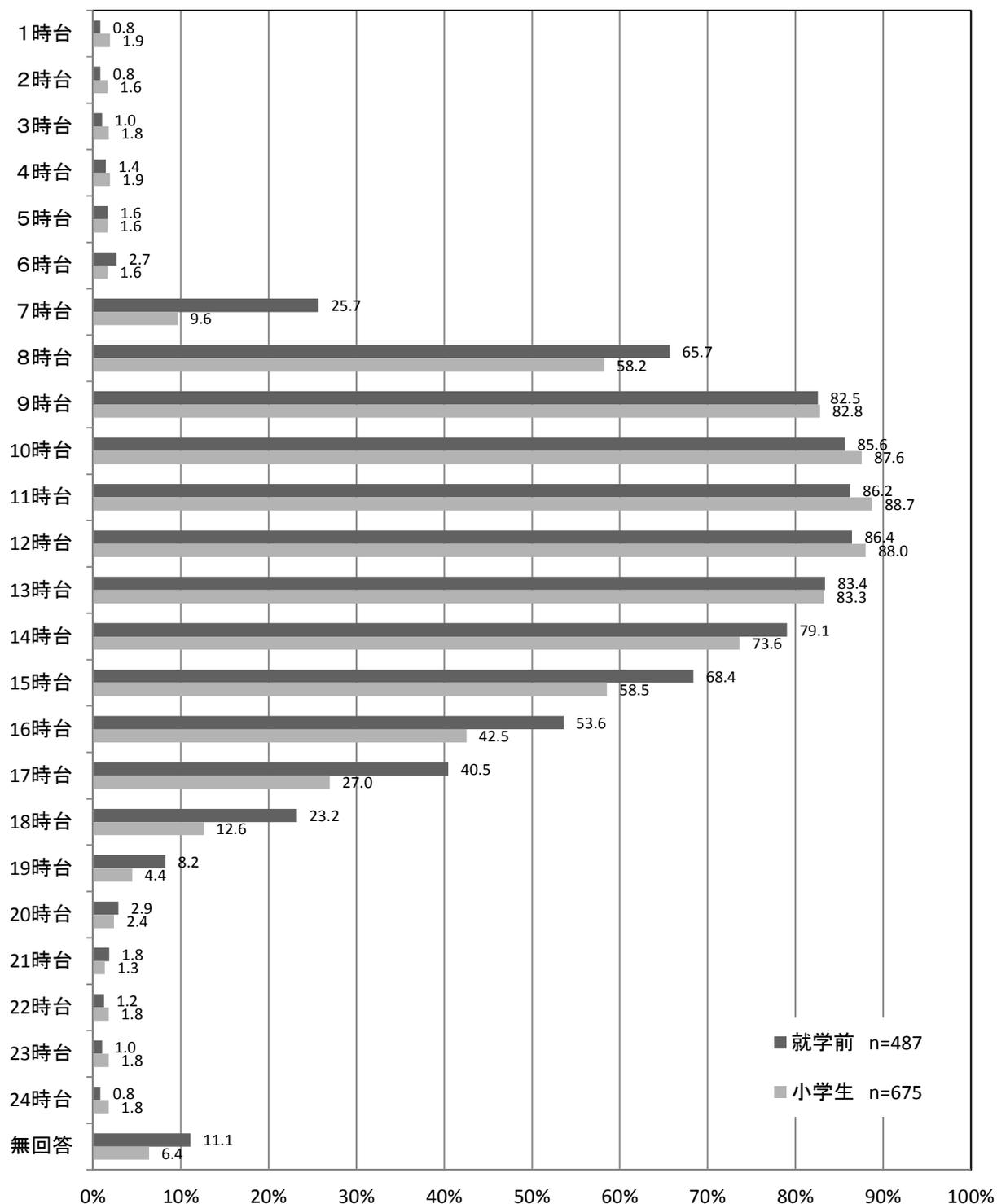


## ② 母親の出勤から帰宅までの時間帯

就労している母親が、家を出る時間から帰宅までの不在にする時間帯は、下図のとおりです。グラフの数値は、その時間帯に家庭にいない母親の割合を示しています。

※例：調査票記入内容 家を出る時間：〔9〕時 帰宅時間：〔16〕時

⇒集計：9、10、11、12、13、14、15時台



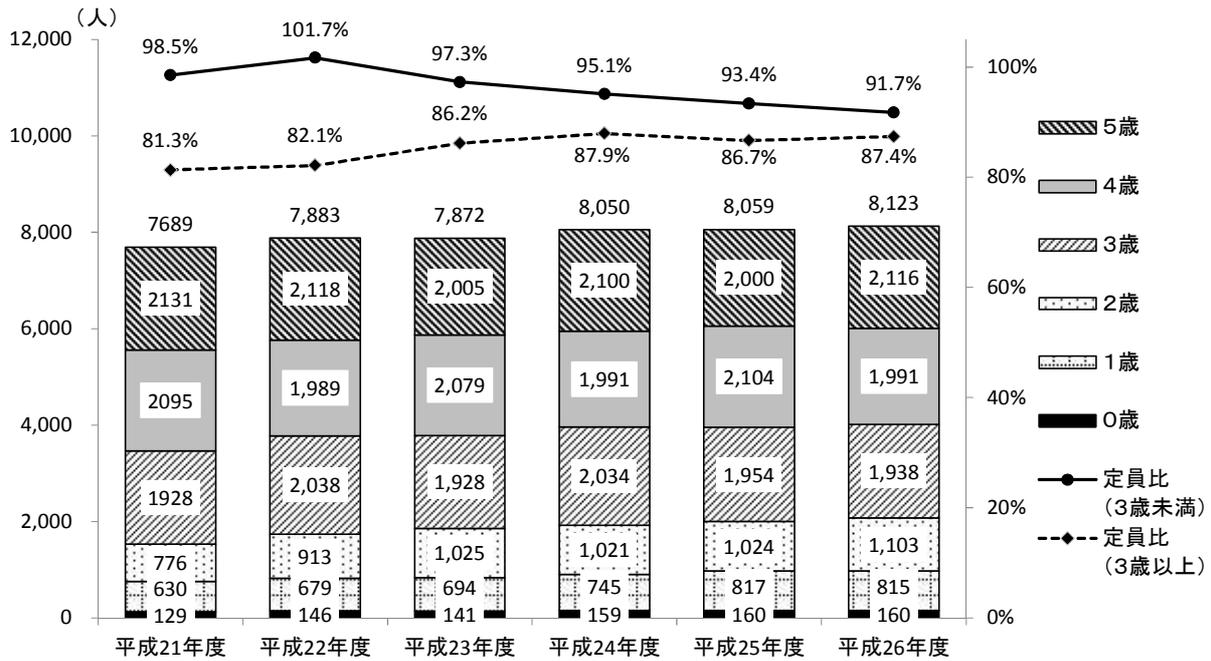
### 3 一宮市の子ども・子育て支援事業の状況

#### 3-1 子ども・子育て支援事業の利用状況

##### (1) 保育園の状況

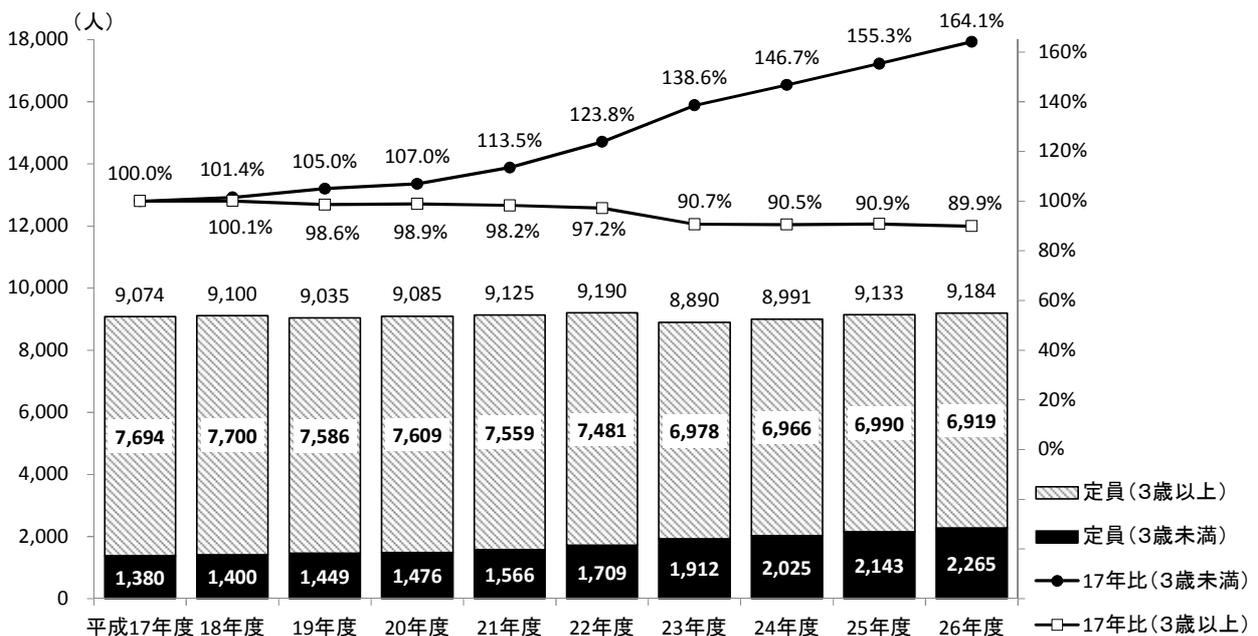
###### ① 保育園の園児数の推移

保育園の園児数は増加傾向にあります。また、定員に対する在園児数の比率をみると、3歳未満では定員の拡大を図っていることから減少しています。また、3歳以上では、86～88%弱を推移しています。



資料：保育課（各年4月1日現在）

###### ② 保育園定員の推移

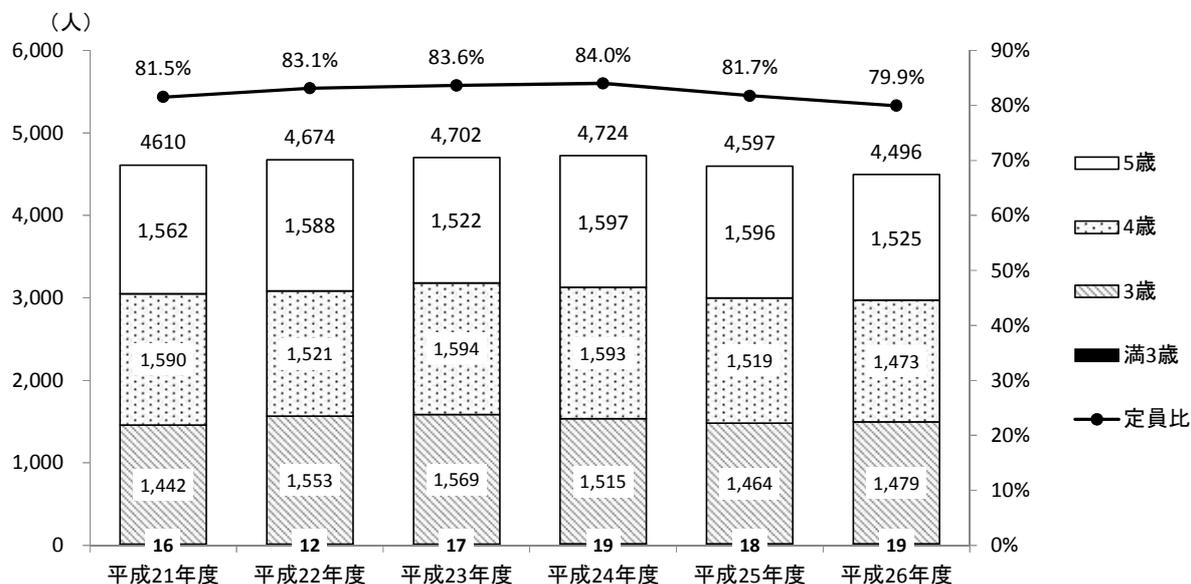


資料：保育課

## (2) 幼稚園の状況

### ① 幼稚園の園児数の推移

幼稚園の園児数、在園児の定員に対する比率ともに平成24年以降減少傾向にあります。

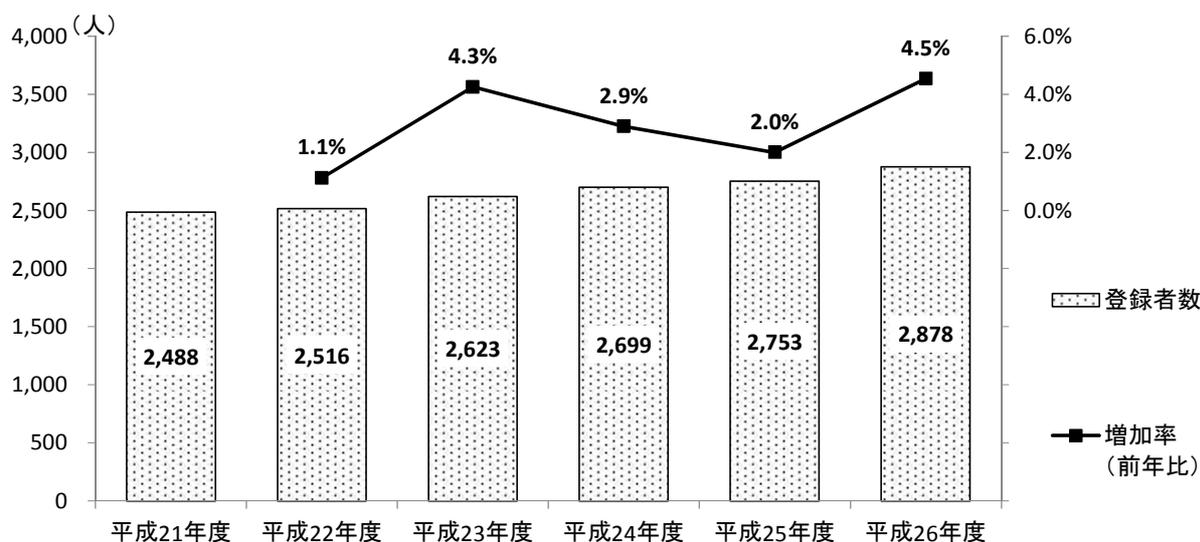


資料：保育課

## (3) 放課後児童クラブの状況

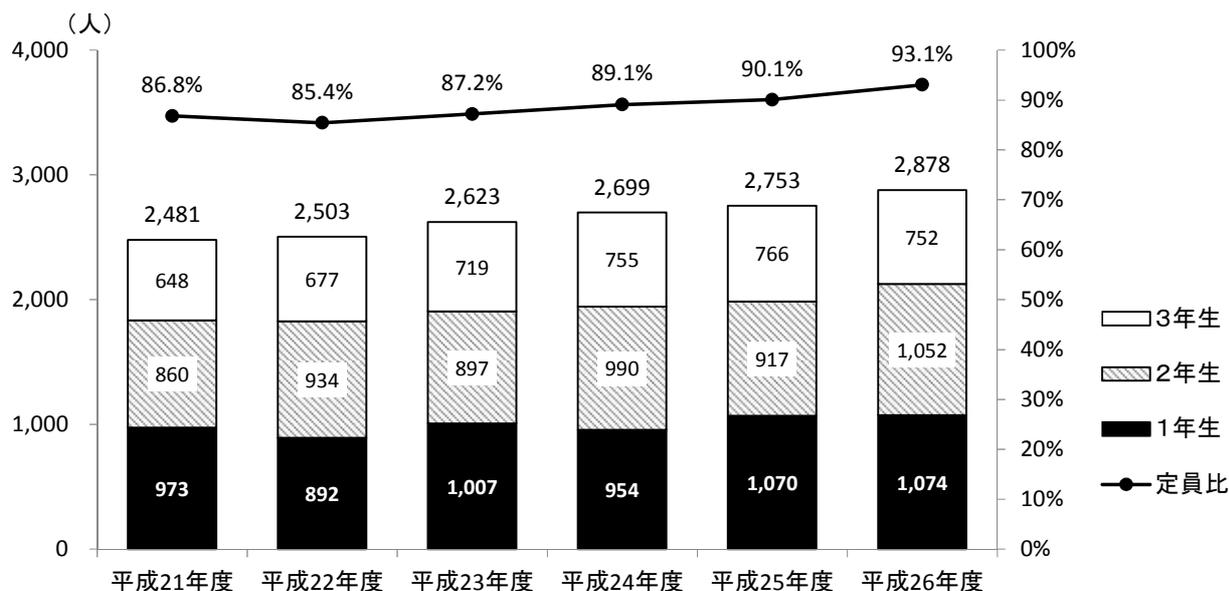
### ① 放課後児童クラブ登録者数の推移

放課後児童クラブの登録児童は、年々増加しており、特に平成26年度は、前年比125人(4.5%)の増加となっています。



資料：子育て支援課（各年4月1日現在）

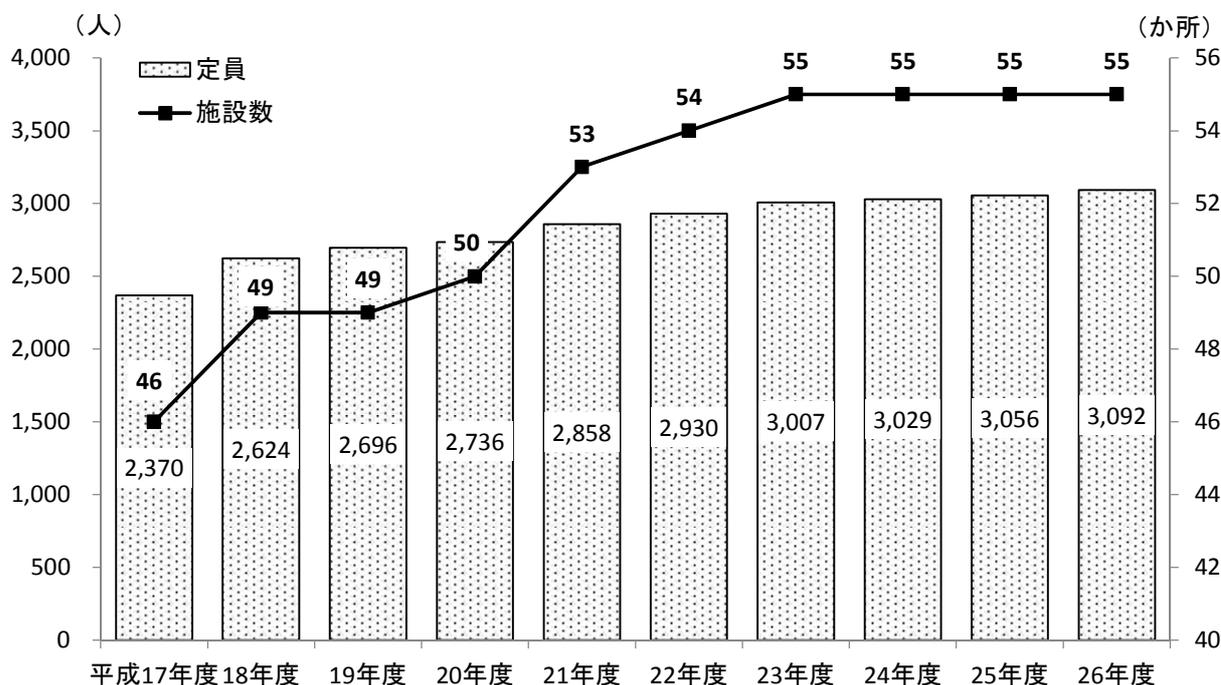
## ② 放課後児童クラブ学年別登録者数の推移



※ 本表の登録者数は、障害児児童クラブの4年生以上の人数を除いている。

資料：子育て支援課（各年4月1日現在）

## ③ 放課後児童クラブ定員等の推移



資料：子育て支援課

### 3-2 次世代育成支援行動計画の取り組み状況

#### (1) 取り組み状況の評価

一宮市では、次世代育成支援対策推進法による「一宮市次世代育成支援行動計画」とこれに続く「一宮市次世代育成支援行動計画（後期行動計画）」を策定し、取り組みを行ってきました。

行動計画では、幅広い分野にわたる子育て環境の向上や整備に関する施策・事業について、体系的に記述するとともに、特定の事業については目標事業量を設定して計画的にこれを達成することが求められています。

後期行動計画における目標事業量については、おおむね達成されているものといえます。

目標事業量設定事業	状 況	後期行動計画	
		目標事業量	達成状況 (平成26年度見込み)
平日昼間の保育サービス			
認可保育園	定員(人)	8,700	9,133
夜間帯の保育サービス			
延長保育事業	実施か所	34	35
	定員(人)	3,130	5,854
休日保育事業	実施か所	2	2
	定員(人)	20	20
病児・病後児保育事業	実施か所	1	1
	定員(人)	4	4
うち 病児対応型・病後児対応型	実施か所	1	1
	定員(人)	4	4
放課後児童健全育成事業	実施か所	59	※ 58
	定員(人)	2,970	3,092
一時預かり事業	実施か所	16	17
地域子育て支援拠点事業	実施か所	9	8
ひろば型	実施か所	-	2
センター型	実施か所	9	6
ファミリー・サポート・センター事業	実施か所	1	1
ショートステイ事業	実施か所	6	6

※ 施設数ではなく、放課後児童クラブ実施か所数を示したものの。(黒田・黒田南・外割田児童館は各2か所)

#### (2) 課題と展望

前述のとおり、数値的な目標はおおむね達成しているものの、事業によっては目標の設定以上に利用希望が増加しており、また、施設配置の地域的な偏在もあって、待機児童の発生や利便性向上の課題が残っています。

目指すべき「一人ひとりの子どもの健やかな成長」は、子育て支援の充実なくしては実現できません。子ども・子育て支援事業計画は、後期行動計画で達成した成果を継承しつつ、新たな基本理念・基本目標を設定して、子どもや子育て家庭への直接的支援に、より重点を置いたものとして策定し、さらなる展開をしていきます。